

令和3年度文理学園校友会決算書

(令和3年4月1日～令和4年3月31日) 単位:円

	科目	予算額	決算額	差異	備考
収入の部	会費	7,610,000	7,620,000	△ 10,000	@10,000×761名(大学:2020年春卒482名・2019年秋卒7名、2021年秋卒業5名、医療96名、高校171名)、@5,000×2名
	雑収入	500	213	287	利息等
	預り金	7,830,000	7,330,000	500,000	@10,000×733名(大学438名、医療100名、高校195名)
	小計	15,440,500	14,950,213	490,287	
	前年度繰越	23,334,198	23,334,198	0	前年度繰越金
	合計	38,774,698	38,284,411	490,287	
支出の部	預り金	7,560,000	7,870,000	△ 310,000	会費へ振替@10,000×761名、退学者返金@10,000×26名(大学25名・医療1名)
	備品消耗品費	100,000	66,190	33,810	インクカートリッジ・コピー用紙等事務用品
	旅費交通費	200,000	49,000	151,000	役員会日当
	印刷製本費	1,500,000	26,400	1,473,600	封筒印刷代
	通信費	500,000	361,704	138,296	決算書送付、郵便代
	支払手数料	250,000	218,130	31,870	学校法人文理学園へ会費徴収事務委託料、振込手数料等
	会議費	150,000	1,820	148,180	監査・役員会お茶代
	人件費	3,000,000	1,246,500	1,753,500	事務補佐職員の給与
	雑費	50,000	21,000	29,000	慶弔費、お茶代等
	ホームページ運営費	50,000	9,900	40,100	ホームページ更新費用
	会員データ管理システム費	50,000	39,600	10,400	ライセンス利用料
	学生活動助成費	1,000,000	0	1,000,000	
	小計	14,410,000	9,910,244	4,499,756	
	次年度繰越	24,364,698	28,374,167	△ 4,009,469	
	合計	38,774,698	38,284,411	490,287	

文理学園より寄付のお願い

学校法人文理学園では、皆さまから頂戴した寄付金を教育・研究活動の充実に活用させていただいております。先輩から後輩へ受け継がれていく支援のバトンを大切に、今後もさらなる発展を目指します。学生たちのより充実した学習環境、有意義な学校生活のために、今後とも変わらぬ温かいご支援をお願い申し上げます。

● 教育・研究事業

教育・研究設備等の施設整備や実験・実習機器の整備や購入、ICT教育推進や図書の実、奨学金や奨励金制度などを図ります。また専門性を活かしたコンテストや大会への積極的な参加など学生たちのチャレンジする機会を創ります。



● 地域貢献活動

本学園では、地域活性化や環境保全などの地域貢献活動を行っています。地域の防犯パトロールや災害復旧ボランティア支援、子どもたち対象のさまざまな体験教室の実施など多岐にわたる地域貢献活動は学生の多様な学習機会となります。



● サークル活動

本学園の文化・体育各クラブは、全国レベルの活躍を続けています。今後も、より一層充実した活動を行うべく備品や練習施設の整備、全国大会への出場や遠征費用を支援します。大学・附属高校それぞれクラブサークルの指定、用途を特定しての寄付も可能です。



インターネットによる寄付金募集について

学校法人文理学園はインターネットによるクレジットカード決済に対応した寄付金募集を行っています。銀行振込(みずほ銀行、三井住友銀行、ゆうちょ銀行)での受付も継続していますので、その場合は法人総務担当(097-524-2724)までお問い合わせください。

<https://kifu.fm/bunri/form.php>



奨学金の授与に感謝! 学生の声

教員になるという夢に向かって自分なりに頑張ってきました。大変なこともありましたが、日々の努力をこのような形で評価していただいたことをとても嬉しく思います。特に、一人暮らしをしながら学んでいる私にとって、このような奨学金制度はとてもありがたいです。校友会の皆さまの期待に応えるべく、今後も引き続き勉強に励みたいと思います。



WEBサイトのご案内

文理学園校友会では、会員の皆さま方へ校友会の活動、ご案内をお知らせするためにWEBサイトを開設しています。卒業生向けの情報発信も行なっていますので、ぜひご覧ください。

文理学園校友会

<https://alumni.nbu.ac.jp/>



NBU日本文理学園

公式Instagram
はじめました。

@nbu_oita



B magazine

文理学園校友会 会報誌 | ビーマガジン

07

Mar. 2023

特集

大分県で初めての
「4年制保健医療学部」開設

p.03 / B PHOTO 一木祭

p.05 / NBU医療専門学校

p.06 / B NEWS 文理学園ニュース



新校舎 10号館「LCMセンター」完成イメージ

地域を輝かせる大学へ。3学部体制で新たな挑戦!

2023年4月、NBU日本文理大学に40年ぶりの新学部となる保健医療学部が誕生する。

「未来を見据え、社会で活躍する“医療産業人”の育成」を目指す保健医療学部。

工学部、経営経済学部との3学部体制で新たな挑戦をスタート。



新校舎 10号館「LCMセンター」完成イメージ

医療と社会をつなぐ “医療産業人”を育成

子どもを取り巻く産業界において、ロボティクス、宇宙開発、地球環境保全、未病、先端医療などは、今後、新産業として中心になっていくのではないかとされています。医療機関は診療や病を治すだけでなく、未病や健康予防に通じる健康サービスを提供する方向へ変化し、それに連れて医療機器やサービスの開発に関わっていく企業も、ますます増えていくと見込まれます。保健医療学部では「未来を見据え、社会で活躍する“医療産業人”の育成」を目指し、ただ資格を取るのではなく、将来、卒業した後社会人として活躍するための人材育成を

見据えています。今後、医療の産業化に伴い、高度な専門知識と医療技術はもちろん、医療産業全体を俯瞰する幅広い視野と柔軟な応用能力を身につけた“医療産業人”の育成が求められていると考えます。“医療産業人”とは医療と社会をつなぐコミュニケーター、架け橋。日本文理大学では、教育理念に基づいて“医療産業人”を育成し、医療産業界のさまざまな分野からすべての人に不可欠な医療技術に加え、福祉や健康を創出します。

「医療」、「福祉」、「教育」を軸に地域に活力を。

超高齢化社会を迎えている今の時代において、地方創生への取り組みはますます

重要性が高まっています。地方を元気にする、未来へつなぐためには「医療」、「福祉」、「教育」の3本柱が欠かせません。健康で長生きするためには健康管理や健康予防などが重要な課題。少しの体調変化も見逃さないためには、単に画像や結果の分析のみならず、人間関係の構築から小さな気づきを発見する事が、総合的な人間力が問われます。

そのために保健医療学部だけでなく、3学部連携教育をさらに強化し、地方創生に貢献できる大学を一丸となり目指します。大分の自然、歴史、文化、まちづくりを知ることから始まり、人間力育成、地域貢献活動などの「発見するための学び」へとつなげる。本学の建学の精神でもある「産学一致」を胸に、地域創生のリーダーとなるべく、さらなる挑戦を続けていきます。



※保健医療学部開設 記者発表の内容を採録、再構成。

3学部連携教育を通じて 未来を生き抜く「人間力」を

医療産業人に必要な「人間力」は、他者や社会に対して理解を深めることで養われます。保健医療学部では、工学部、経営経済学部との連携授業や、課題解決型の合同プロジェクトを展開するなど、さまざまな人との関わりを通じて、人間力を育成します。経営経済分野では「戦略・組織・人」というビジネスの基礎知識を中心に、マネジメント力を身につけ、工学分野では「ものづくり」に対するアプローチやプロセスを個々の事例を通して学び、医療機器に関する知識に加え、研究や開発に関する考え方を修得。社会や産業界を俯瞰し、柔軟な発想を生み出す力を培います。



リニューアルした7号館



講義室



先進医療技術を体得する ハイレベルな実践教育の場

自然に囲まれた広大なキャンパスの中心に、新校舎の10号館「LCMセンター」が誕生します。1階には全学生が利用し、交流することのできるラーニングcommonsに加え、MRIやX線CT実習室を、2階には診療放射線学コースの実習室を、3・4階には臨床検査学コースの実習室と関連する装置を整備予定です。リニューアルした7号館「保健医療学部棟」と併せて最先端の医療技術を学ぶことができます。

「次世代の“医療産業人”を」。未来を見据えた挑戦に、多くのメディアが注目

メディア掲載・
出演履歴

記者発表

- 2022年11月08日 / OBS大分放送テレビ
- 2022年11月09日 / 日経新聞(電子版)
- 2022年11月09日 / 大分合同新聞
- 2022年11月09日 / 西日本新聞
- 2022年11月10日 / 毎日新聞

その他

- 2021年08月06日 / 大分合同新聞
- 2021年08月19日 / 読売新聞
- 2022年12月03日 / 大分合同新聞
- 2023年01月21日 / 大分合同新聞GXPRESS



ものづくり
センター
NBU日本文理大学
MONOZUKURI CENTER

「ものづくりセンター」OPEN!

2022年12月1日、学生が「ものづくり」と「デザイン」を自主的に学習できる『ものづくりセンター』を開設しました。センター内のFab-Labスペースにはレーザー加工機や3Dプリンタなどのデジタル加工機を設置。少人数制での安全講習や機器の操作方法の説明など、学生の皆さんを対象とした講習会による運用サポートも行っています。さらに、今後はグラフィックデザインなどについても学べるソフトも導入予定。自由な発想でさまざまなものづくりを実践できる場として大いに活用していただけます。

Let's talk in English



ゲームで楽しく英会話を学ぶ

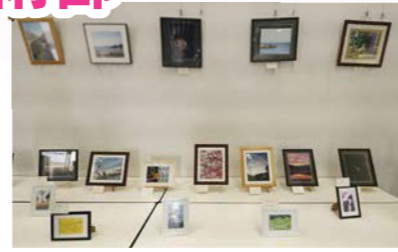
ネイティブの先生と一緒に楽しみながら英会話を学ぶコーナー。日常生活で使えるフレーズなどを、ゲームを交えてわかりやすく教えていただきました。



写真部・美術部 作品展

写真部と美術部の合同作品展

学内初となった写真部と美術部の合同作品展です。学生たちが思いを込めて撮影した写真や1点1点の絵画はどれも素晴らしいものばかり!



お面アート展



個性豊かな500点のお面が勢揃い!

大学生や高校生などが制作した「お面アート」500点以上を展示。ユニークなものからインパクトあふれるものまで、個性豊かなお面が勢揃いしました。



沖縄県人会



十字綱引き トーナメント

頭脳と体力を駆使した綱引き大会

強化スポーツクラブが企画し、大学生や附属高校生、別科留学生などが参加。頭脳と体力を駆使した綱引きで交流を回りました。



NBU 日本文理大学 第55回 一木祭
テーマ "Evolve"

一木祭

2022.10.22 sat

第55回を迎えた一木祭は、初となる日本文理大学・日本文理大学医療専門学校・日本文理大学附属高校の3校合同での開催となりました。コロナ禍で地域の方々のご参加は叶わなかったものの、大学生・専門学校生・附属高校生が一体となって楽しんだ有意義な1日でした。



3校対抗クイズ大会 大学・医療専門学校・附属高校



3校にまつわる大クイズ大会

各校55名ずつ参加した大クイズ大会を実施。3校それぞれにまつわる難問や奇問(?)が出題される中、優勝を勝ち取ったのは附属高校チームでした!

リアル脱出ゲーム



40組中2組が難問をクリア!

医療専門学校が中心となって開催。約40組の参加者が難問に立ち向かい、そのうちの2組が見事にクリア!無事に脱出することができました。



吹奏楽部



チアリーディング



SDGsカルタ大会



柔道場で大カルタ大会を実施

SDGsの取り組みの一環として、建築学科中西研究室の学生が附属高校の生徒の協力を得て特大カルタを制作。広い柔道場で大カルタ大会を楽しみました。





未来へバトンを渡す。 NBU医療専門学校。

平成7年に「NBUメディカルカレッジ」としての開校以来、高い技術と人間性を備えた医療スペシャリストとして、これまで約2,000名の卒業生を送り出してきた「日本文理大学医療専門学校」。今回は、その1期生と在校生からのメッセージをお届けします。医療の世界を志したきっかけから未来の医療のことまで…それぞれの想いを紡ぎます。

想いをつなぐ“メッセージ・リレー” Message Relay

バトン1
1期生

知識や技術の向上だけでなく いつも胸に人を想う気持ちを

高校卒業後は一般企業へ就職の予定でしたが、いざ卒業を目の前にして、「人の役に立ちたい」という思いがあることに改めて気づきました。看護師だった母からNBUメディカルカレッジが新たに開校すると聞き、思い切ってチャレンジしようと決意。医療という未知なる分野への不安はありましたが、知識やスキルを少しずつ身につけていきました。そんな自分のターニングポイントになったのは、病院での臨床実習。緊張と経験不足から学校で学んだことを活かす

ことができず、やはり現場でしか分からない学び、患者さんと向き合う姿勢など課題が多いと実感しました。現在、「へつぎ病院」の放射線科で。看護師を務めています。私たち放射線技師は、ドクターや看護師と連携し医療の重要な一役を担い、チーム医療に携わっています。自分が行った検査、その結果の分析が、その後その診断や治療方針に結びつくので責任はとても重いのですが、やりがいも同じくらい大きい仕事だと思います。

学生のうちは、資格を取ることが目標になってしまいがちですが、機械を操作することだけが私たちの仕事ではありません。患者さんに寄り添い、症状や様子、コミュニケーションの中で、診断やケアに役に立つことがたくさん見つかります。「私たちの仕事は人と関わる仕事だ」と意識した学びの姿勢が大切です。新たに開設する保健医療学部で、他分野や地域との関わりを通して社会を俯瞰する力を養い、医療の未来を担う人材を目指してほしいと感じています。

診療放射線学科 1997年卒業
社会医療法人財団天心堂 へつぎ病院 放射線技術科
神野 修児さん



バトン2
在校生

未来の医療を支える 人間力溢れる臨床検査技師へ

高校時代に体調を崩して病院で検査を受けた際、とても親切な臨床検査技師の方に会いました。私は慣れない検査を目の前にしてとても緊張していましたが、不安を和らげるように終始優しく接してくれてとても感動しました。そのときに臨床検査技師という職業があることを初めて知り、NBU医療専門学校の臨床検査学科への進学を決意しました。もともと看護師を目指していたこともあり、医療分野の勉強は大変だと覚悟し

ていましたが、不得意な科目や成績の話、将来のことに相談のってくださる先生方のおかげで、とても充実した学生生活を送っています。また、好きな生物学の実習では、肉眼では見られない細胞を顕微鏡で観察するなど、より興味のある分野を学べる喜びを感じています。ここ数年、病気を解析するシステムや機械が導入されるなど、医療分野でもAIデジタル化が進んでいます。最新の機器についても知識を深め、

一人でも多くの患者さんの病気の早期発見に役立ちたいと考えています。まずは、国家試験に合格することが一番の目標ですが、資格取得だけがゴールとは思っていません。合格後の自分の姿を想像しながら、日々の勉強に励みたいと思います。そして、温かい対応で患者さんの緊張感や不安を払拭し、大きな安心感を感じさせる、先輩たちのような臨床検査技師を目指したいと思っています。

臨床検査学科 1年
今岡 夏希さん
(日本文理大学附属高校出身)



日本文理大学

プロスポーツ選手として今後の活躍が期待される、5名の学生たち!



硬式野球部

福岡ソフトバンクホークスから 育成10位指名

経営経済学部 経営経済学科4年
前田 純さん

「もともと憧れのチームだった福岡ソフトバンクホークス。大事な場面に任せられるピッチャーを目指し、しっかり練習を積み重ねていきたいです」



女子ソフトボール部

『JD.LEAGUE』所属の 実業団チームへの加入決定

経営経済学部 経営経済学科4年
井上 瑞樹さん、古庄 未久さん

「目標に挑戦できたことに感謝しています。誰からも応援される選手になりたいです」(井上さん)
「必ず報われると信じて、コツコツと努力を続け練習に励みます」(古庄さん)



サッカー部

J3「ギラヴァンツ北九州」に2名が加入

経営経済学部 経営経済学科4年
岡野 凜平さん、高 昇辰さん

「大学4年間を糧に、夢を忘れず、日々の練習に励んでいきたいです」(岡野さん)
「今まで培ってきたものを全て発揮して、早く注目を集める存在になりたいです」(高さん)

日本文理大学附属高等学校

Google for Education活用甲子園 ～図書委員会編～にて最優秀賞を受賞

図書委員会が情報技術科と連携し、Google Apps Scriptなどを活用して独自のシステムを構築。図書管理を自動化・運用することで本の貸し借りを効率化する本校の取り組みが、「Google for Education活用甲子園～図書委員会編～」で最優秀賞を受賞しました。受賞に際しては、学校内で生徒同士の学び合いを盛んに行ったことや、ICTツールの活用で試行錯誤を繰り返したことなど、システム構築に向けてのさまざまな努力に対しても高く評価されました。



「皆でつくるプラゴミアートPROJECT」で環境問題を学ぶ

大分県内の小・中・高校の6校が参加して、海岸や河川敷の清掃活動で集めたプラスチックゴミでアートを制作。世界的なプラゴミアーティストである「淀川テクニック氏」がそれらを使ってひとつのアート作品を完成させる「皆でつくるプラゴミアートPROJECT」。ごみの削減をはじめとする環境問題を身近に考える大きなきっかけとなりました。完成した作品は「おおいとうつくし感謝祭」でも披露されました。今後も環境問題啓発のため展示される予定です。

日本文理大学医療専門学校

「臨床・臨地実習発表会」を開催

毎年3年次に、それぞれの学生の出身地を基本として、実際の医療現場で、約2～3ヶ月の学外実習を行なっています。実習後には、学科ごとに自らの体験を1・2年生の前で発表する「臨床・臨地実習発表会」を実施。長い実習期間を終えた後の発表会で、実習でのさまざまな体験やこれからの目標や夢などを先輩に伝えることは、3年生の今後の大きな成長につながる大切な機会。1・2年生にとっても、先輩方の体験談を聞ける貴重な時間になりました。



3年ぶりに「スポーツ大会」を実施

コロナ禍で中止が続いていたスポーツ大会を3年ぶりに実施することができました。学生が自分たちで企画から運営まで手がける大会で、全学年・全学科を対象としたクラス対抗によるバレーボールとドッジボールの2種目を開催。会場となった日本文理大学の体育館は熱のこもった声援に包まれ、終日大きな盛り上がりを見せました。優勝に向かって一丸となってプレイすることで、クラスメイト同士のつながりも一層深まりました。